

調藥監關員及不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ  
第八條 調藥係

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印スヘシ
- 第二 付與セラルル處方箋ヲ審按シ若疑難アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事タリト雖臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 藥品及ヒ器械等闕乏ナキ様日日調査シ若闕乏品アラハ院長又ハ幹事及ヒ調藥監ノ檢印ヲ得テ受取ヘシ
- 第四 藥劑ヲ調製スルトキハ其秤量等誤謬ナキ様注意スヘシ
- 第五 毎日一名ツツ輪番ヲ以テ宿直スヘシ
- 第六 日日藥品ノ出納ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ
- 第七 諸願伺届書等ハ總テ調藥監ニ差出スヘシ

開拓使達達二年十一月日附

別紙ノ通令般病院規則相立候ニ付官員始從者市在旅人ニ至迄醫療相願者ハ夫夫願出可申出候事

病院規則

- 一 諸官員病氣ノ節ハ醫師診察ノ上其次第二ヨリ入院療養可被致從僕ノ者ハ其主人ノ斷ヲ以テ入院ノ上診察治療可請尤モ藥品料ハ可被相納事
- 一 入院治療ノ儀ハ御救恤第一ノ儀ニ付貧民御藥御賄共被下置候得共自今相應ノ者ハ爲冥加日日金百疋相納可申且諸國船方ノ者入院願出候節モ右同斷ノ事

何町

開拓使病院規則  
五年十一月十一日札幌本  
館達無誤ヲ以テ改正ス

右ハ今般病院御治療奉願候然ル上ハ難症ニテ其驗無御坐相果候共聊カ異論申間敷候以上  
何 某 或ハ悴妻娘  
請人 何 某印  
何 某印  
名主 何 某印  
書面之通相違無御坐候以上

開拓使事業報告抄録

小樽病院 後志國小樽郡小樽港

石狩病院 石狩國石狩郡

明治三年四月札幌病院ニ屬シ小樽、石狩病院ト稱ス

(參考)

開拓使事業報告抄録  
明治二年九月大學二等醫一名札幌在勤ヲ命シ後志國小樽郡錢函村開拓使假應ニ遣リ當時小樽石狩二郡  
瀕海地兵部省管轄タリ患者ヲ治療ス三年四月小樽石狩兩所兵部省設立ノ病院ヲ引受ク

開拓使札幌本廳達四年八月二十五日

自今使部以下附屬迄病氣ノ節ハ病院ニ於テ官費治療候條此旨相達候事

開拓使事業報告抄録

岩内石炭山病院 後志國岩内郡茅沼

明治五年六月設置礦夫及外來患者ヲ療ス

札幌本廳使部以下ノモ  
ノ病氣ノ節治療方  
九年十月札幌本廳達乙第  
百二十二號ヲ以テ官費治  
療ヲ廢ス  
札幌本廳後志國岩内郡  
茅沼村石炭山ニ病院ヲ  
設ケス  
六年九月日岩内病院ニ  
合併ス

開拓使事業報告抄録

明治五年九月後志國余市郡川村、岩内郡御鉢内村、古平郡濱中村、古宇郡神惠内村、忍路郡忍路村、積丹郡日司村、石狩國濱益郡茂生村、厚田郡厚田村、膽振國勇拂郡苦小牧村、白老郡白老村ニ病院ヲ設ク

札幌本廳後志國余市郡川村外九箇所ニ病院ヲ設ケル  
七年二月札幌本廳達二ノ第二號ヲ以テ積丹病院ヲ設ケル  
六年五月日岡忍路白老病院ヲ設ケル  
七年十二月日岡厚田山出病院ヲ設ケル  
十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ濱益出取所ヲ病院包圍トス  
十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ古平古宇勇拂三病院出取所ヲ設ケル  
十五年一月札幌本廳達河第四號ヲ以テ岩内余市兩出取所ヲ設ケル  
七年一月札幌本廳達一ノ第十六號ヲ以テ名稱ヲ改

札幌本廳病院入院患者并藥劑定價其他規則

五年十一月十六日札幌本廳達無號ヲ以テ各郡病院藥劑取立并患者名前書等取扱官員ヲ設ケ

開拓使札幌本廳達 五年十一月十一日

別紙ノ通病院御決定ニ相成候上ハ各郡出張ノ病院ニ於テモ右同様御心得有之度此段申進候也

入院患者并藥劑定價其他御規則

第一條 入院患者賄藥劑料共左ノ通相定候事

上等 一日 金一步二朱

中等 一日 金一步

下等 一日 金三朱

第二條 藥劑代價左ノ通相定候事

水藥 一日分 銀三匁

丸藥 一日分 銀二匁

散藥 同 銀二匁

眼藥 一瓶 銀一匁

外布藥 一瓶 金一朱

煎藥 同 銀二匁

膏藥 一具 銀一匁

第三條 是迄等外附屬并移住民請負諸職人土方ノ者共藥劑申受候節ハ被下切相成居候處向後相廢止藥劑定價ノ通可相納事

第四條 官費生徒并土人ノ分ハ藥劑賄共被下候事

第五條 市在困窮ノ者共自費ヲ以テ治療難致分ハ戸長伍長ノ内ニテ取調ノ上印紙ヲ以テ願出候得ハ藥劑御賄共被下候事

第六條 御扶助被下候移住民入院中ハ御扶助米并鹽噌料爲相納藥劑御賄共被下候事  
但藥劑ノミ相乞候者ハ御施藥ノ事

第七條 御賄被下候患者一日立米五合五勺銀六匁ツツ御入費卜定候事  
右之通確定候事

開拓使札幌本廳達 五年十一月十六日

別紙ノ通各郡藥價取立ノ儀ニ付伺ノ上御附紙通御達相成候條寫相副及御回達候可被得其意候右同章各御承知之上順那次渡留ヨリ返納可有之候此段及御達候也  
(別紙)

來酉年正月ヨリ於各郡モ藥價取立候様御定則相成候ニ付テハ月月藥價取立并患者名前書等取調候事務官員被差置候様被仰付度尤小郡ハ出張所官員ノ内ヨリ兼務被仰付可然哉此段相伺候也  
壬申十一月

各郡病院藥價取立方ハ地方官員兼務ノ儀可申達事

札幌本廳各郡病院藥價取立并患者名前書等取扱官員ヲ設ケ

七年四月札幌本廳達四ノ第九號ヲ以テ第七條中ヲ改正ス

七年七月札幌本廳達七ノ第十九號ヲ以テ第五條ハ但書ヲ追加ス

九年五月札幌本廳達一ノ第二十四號ヲ達看スヘシ

札幌本廳札幌病院休暇  
日ヲ定ム

六年九月札幌本廳達九ノ  
第二號ヲ參照スヘシ

開拓使札幌本廳達 六年三月二十四日  
別紙寫ノ通病院ヨリ申出候間爲御心得及御達候也  
(別紙)  
當院ノ儀ハ是迄休暇ナク總テ出勤ノ處以來廳中休暇日ハ醫局藥局事務係共一名ツツ出勤  
但醫局藥局ハ副直一名ツツ午前十二時迄相詰候事  
右之通休暇相定候ニ付此段御届申上候也

開拓使事業報告抄録

室蘭病院

明治六年三月室蘭郡舊室蘭村ニ設置ス六月新室蘭港ニ移轉室蘭病院ト稱ス

開拓使事業報告抄録

六年五月白老病院ヲ勇拂病院ニ併シ忍路病院ヲ小樽病院ニ併ス

開拓使事業報告抄録

明治六年六月札幌病院ニ事務主治教授三課ヲ置ク

札幌本廳醫務課室蘭郡  
室蘭村ニ病院ヲ設置ス  
七年一月札幌本廳達一ノ  
第十六號ヲ以テ名稱ヲ改  
メ

札幌本廳白老病院ヲ勇  
拂病院ニ併シ忍路病院  
ヲ小樽病院ニ併ス

札幌本廳札幌病院ニ事  
務主治教授ノ三課ヲ置  
ク

十七年七月二十八日札幌  
本廳達無號ヲ以テ職制ヲ定  
ム

八年三月札幌本廳達乙第  
四十一號ヲ以テ教授課ヲ  
廢ス

札幌本廳病院出張所ヲ  
何郡病院ト改稱ス

七年一月札幌本廳達一ノ  
第十六號ヲ以テ改稱ス

開拓使札幌本廳達 六年八月二十八日  
各局校院 各出張所  
醫員各郡詰場所ノ儀是迄病院出張所ト稱來候處自今何郡病院ト相稱候事

一各郡病院ヨリ藥品及醫療器械等ノ儀ハ本院直往復其他ノ事務諸願伺届等總テ各郡病院ヨリ其地方官

へ申立地方官之ヲ庶務局へ宛往復致來候處自今其地方官ヨリ本院ヲ宛往復可致尤其事件各局ノ内へ  
關涉スルハ其局及ヒ本院ト相評ニテ可申立事  
右ノ通相達候事

開拓使札幌本廳達 六年九月四日  
各出張所

今般病院造營落成來ル六日開院ニ付別紙規則相達候條爲心得其地病院并郡民へモ可相觸事

病院規則

一病院ハ疾病ヲ治シ蒼生ヲシテ健康ヲ保タシムル所以ナリ今ヤ北海ノ地新ニ開ケ生齒ノ數一月一月  
ヨリ多シ然シテ其未タ風土ニ習慣セサルヲ以テ疾病亦少シトモス依之 御愛恤ノ餘今般新ニ病院  
御創立ニ相成候深ク御趣意ヲ奉戴シ攝生法ハ勿論治療法行届キ殃夭非命ノ死無之様貴賤貧富ヲ問  
ハス取扱可致事

一出頭ハ朝第八時退出ハ午後第三時ノ事

一官醫ハ一般自分療治不相成事

一主治課一人司藥掛一人護長掛一人宿直ノ事

一病院ハ休日ナシ然シ間隙ヲ以テ休暇ト可爲事

一規則ハ其時宜ニ依テ相立候間不便ノ事有之候節ハ會議ノ上改正可致事

入院患者規則

一入院ヲ願フ者ハ診察ノ上證人同道事務課へ届ケ免許ノ證書ヲ持シ當直へ届ケ病室等可受指圖事

一入院中衣服飲食等萬事醫官ノ指圖ニ隨ヒ自儘ラシキ事有之間敷事

一無據事故アリテ外出ヲ願フ者ハ其段當直へ申出許可ノ證書ヲ以テ事務課へ相達候上外出可致歸院  
ノ上ハ其證書可差返事

一入院ノ節金銀其外事務課へ預ケ置退院ノ節可受取事

札幌本廳病院規則ヲ改  
正ス  
十七年七月二十八日札幌  
本廳達無號ヲ以テ札幌病  
院規則ヲ定ム

- 一看病人ハ病院ヨリ差出候得共急劇ノ患者ハ近親ノ者一人ツツ可附添事
- 一入院中猥リニ飲食等院中へ取入レ間敷事
- 一外來患者規則
- 一診察ヲ乞フ者ハ朝第八時ヨリ午後第二時迄可罷出事  
但急病ハ此例ニアラス
- 一診察ヲ乞フ者ハ取次所へ届ケ出小使ヨリ當直へ可達事
- 一藥劑ハ處方書ヲ以テ事務ノ印章ヲ取り藥局ヨリ可乞受事
- 一娼妓微毒検査規則
- 一娼妓免許ノ者速ニ微毒有無検査ヲ受ケ當院鑑札ヲ請ケ渡世可致事
- 一微毒検査毎月五日日遺漏ナク検査可受事
- 但無據事故有之欠席スル者ハ其旨申出翌日検査可受事
- 一微毒症輕重ハ検査醫員ノ考定ニ有之事ニ付入院治療或ハ日通ヒ治療等申渡猥リニ苦情申間敷事
- 一微毒ニ付封客セシメ候日ヨリ髪飾リ化粧等禁止候事
- 一娼妓ト貸座敷主等ノ間ニ於テ何條ノ事故アリ御趣意ニ相悖リ候儀ハ無忌憚可申出事

開拓使事業報告抄録

六年九月岩内石炭山病院ヲ岩内病院ニ併ス

札幌本廳岩内石炭山病院ヲ岩内病院ニ合併ス  
諸醫員旅費渡方制限

開拓使札幌本廳達 十一年十月二十四日 各出張所石炭山係  
病院其餘場所詰醫員旅費ノ儀函館支廳ヨリ伺濟ニ付別紙規則寫ノ通決議相成施行候條此段相達候事

病院其餘場所詰醫員旅費渡方制限

第一條 市在貧究者或ハ不得已事故有之官費治療願出候者ハ正副戸長ニテ篤ト取調願書與印ノ上申立

候節長官ヨリ 長官旅出等ノ節ハ次官 醫員へ看病出張申付候節ハ藥價モ官費ニ被相立候ニ付旅費其出張所程ノ遠近一泊等ノ無區別變則ニ照準シ給與スヘキ事

第二條 東西各郡及近傍出張所等醫員被差置候場所其所轄内貧窮ノ者或ハ不得已事故有之官費治療願出候者ハ第一條手續ノ通其出張所へ願出候ハハ請合全權ノ官員ニテ醫員へ出張ヲ命シ其段委細本廳へ可申立藥價及出張ノ旅費共官費支給スヘキ事

第三條 御雇或ハ徵募等ノ者ニシテ官費治療可相成規有之ハ診察ノ爲メ出張ノ醫員旅費モ前同様官費ヲ以テ支給スヘキ事

第四條 右ノ外總テ自己相對頼ト見做旅費ハ不支給藥價兼テ成規ノ通爲相納可申事

第五條 自己相對頼病者ノ爲メニ醫員出張ノ節御備馬借用相願候節官ノ差支無之ハ時宜次第貸渡候事

右ノ通確定候事

明治六年八月

藥價定

一水藥	一日分	五錢
一丸藥	同	四錢
一散藥	同	同
一泡劑	同	三錢
一外敷藥	同	同
一點眼水	一瓶	二錢
一膏藥	一貝	一錢

右御藥價每月月末上納可致候事

札幌本廳各郡病院ヲ何郡出張病院ト改稱ス

開拓使札幌本廳達 十一年十一月二十日 各出張所

九年四月札幌本廳達乙第  
五十三號ヲ以テ名稱ヲ改

各郡病院自今何郡出張病院ト改稱候條爲心得此旨相達候事  
但事務取扱方ハ従前之通ト可相心得事  
追テ其郡郡病院へハ出張所ヨリ可相達候事

札幌本廳積丹郡出張病  
院ヲ廢止ス

開拓使札幌本廳達二七年二月十三日  
積丹郡出張病院當分廢止候條爲心得此旨相達候事

札幌本廳病院規則第七  
條ヲ改正ス

開拓使札幌本廳達四七年四月二十九日  
病院患者賄料壬申十一月中相達置候處今般別紙ノ通改正本年五月十六日ヨリ施行ノ筈ニ付各所出張病  
院へ可申達此旨相達候事  
明治七年五月十六日ヨリ改正

入院患者一日分賄料  
一日金九錢 但一賄米三錢  
右之通  
米五合一勺 但一賄米一合七勺

札幌本廳病院規則第五  
條ハ但書ヲ追加ス

開拓使札幌本廳達七七年七月十五日  
壬申年中施行患者取扱規則第五條中別紙ノ通但書追補候條此旨相達候事  
(別紙)

但當地并各郡病院アル地ニ於テ管轄自他ヲ不問寄留ノ者困難ニテ施藥治療願出候節ハ其代價等身元  
引受人ヨリ償還可爲致ハ勿論ニ候得共引受人ニ於テ償還能ハサル節ハ被下切若シ入院セスシテ不叶  
患者ハ毎日賄料相納ムヘシ

札幌本廳濱益出張病院  
ヲ石狩出張病院派出所  
トス

開拓使札幌本廳達七七年十一月十七日  
今般其出張所相廢候ニ付テハ其出張病院自今石狩出張病院派出所ト可相心得事

札幌本廳古宇出張病院  
ヲ岩内出張病院派出所  
トス

開拓使事業報告抄錄  
七年十一月古宇出張病院ヲ岩内出張病院古宇派出所ト改稱ス

札幌本廳厚田出張病院  
ヲ濱益派出所併  
ス

開拓使事業報告抄錄  
七年十二月厚田出張病院ヲ濱益派出所併ス

開拓使事業報告抄錄

明治七年十二月日高國靜内郡下方村沙流郡捫別村浦河郡浦河村幌泉郡幌泉村十勝國廣尾郡茂寄村五  
病院皆本廳ニ屬ス(浦河支廳廢止ニ由ル)

(參考)

- 開拓使事業報告抄錄
- 靜内病院 明治四年稻田邦植設置ス七年十二月札幌病院ニ隸シ靜内出張病院ト稱ス
- 沙流病院 明治五年二月創設七年十二月札幌病院所轄トナリ靜内出張病院沙流派出所ト稱ス
- 浦河病院 明治五年二月創設七年十二月札幌病院ニ屬シ浦河出張病院ト稱ス
- 幌泉病院 明治五年二月設置七年十二月札幌病院所轄トナリ浦河出張病院幌泉派出所ト稱ス
- 廣尾病院 明治五年二月設置七年十二月札幌病院所轄トナリ浦河出張病院廣尾派出所ト稱ス

開拓使札幌本廳達八年一月十八日  
其院中自今司藥護長ノ兩係ヲ設候條此旨相達候事

札幌本廳札幌病院ニ司  
藥護長ノ兩係ヲ設ク  
十七年七月二十八日札幌  
廳達無誤ヲ以テ札幌病院  
規則ヲ定ム

札幌本廳出張病院規則  
ヲ更正ス

開拓使札幌本廳達 八年一月二十二日  
第十十六號各出張所

出張病院規則書別紙之通更正候條其筋違方可取計此旨相達候事  
(別紙)

札幌管内各郡病院更正規則

病院ハ疾病ヲ治シ蒼生ヲシテ健康ヲ保タシムル所以ナリ今ヤ北海ノ地移住ノ人民一月一月多クシテ其未タ風土ニ習慣セサルヲ以テ疾病亦タ少シトセス依之各郡ニ出張病院ヲ設ケ其職ヲ盡サシム宜上意ヲ奉シ攝生法ハ勿論治療法治及シ殃天非命ノ死無之樣賤貧富ヲ問ハス懇切ニ取扱可キ事  
一 配劑錄ニ病症全快死亡等詳載シ半年毎ニ本院ヘ可差出事  
一 大患者有之治療難決節ハ其最寄ノ同僚ヘ相談致スヘキ事  
一 痘ハ小兒ノ大厄ナルヲ以テ懇々説諭シ漏ナキ様種痘施行スヘキ事  
但種痘人員本院ヘ届ヘキ事  
一 娼妓微毒有無五日目毎ニ遺漏ナク検査可致事  
但無據事故有之闕席スル者ハ其旨聞届ケ翌日検査スヘキ事

附

一 娼妓免許ノ者速ニ微毒有無検査ヲ遂ケ病院鑑札下渡スヘキ事  
一 微毒症輕重ハ検査官醫ノ鑑定ニ有之事ニ付入院治療或ハ日通ヒ治療等申付ヘキ事  
一 微毒ニ付禁客セシメ候日ヨリ髮髻リ化粧等禁止ノ事  
一 藥劑價左之通

- 一 水藥 一日分 金五錢
- 一 丸藥 一日分 金三錢二釐
- 一 散藥 一日分 同
- 一 煎藥 一日分 同

八年四月札幌本廳達第百五十七號ヲ以テ藥價ヲ更正ス

九年十月札幌本廳達乙第百二十二號ヲ以テ入院料藥價等官費ノ率ヲ廢ス

一 眼藥 一瓶 但シ一日分金一錢七釐  
一 膏藥 大一員 但三日分金五錢一釐  
          中同 但二日分金三錢四釐  
          小同 但一日分金一錢七釐  
一 外布藥 一瓶 但一日分金六錢二釐  
一 入院料左ノ通但藥劑價共  
一 上等 一日 金三十七錢五釐  
一 中等 一日 金二十五錢  
一 下等 一日 金十八錢七釐五毛  
但三等ノ取扱ハ患者ノ數ト看病人トヲ以テ區分シ上等三人中等五人下等十人ノ患者員數ニ付看病人各一人ツツトス

一 邏卒及ヒ土人ハ藥劑賄料共官費ノ事  
一 囚獄患者藥劑官費ノ事  
一 寄留ノ外市在加籍困窮ノ者共自費ヲ以テ治療難受分ハ區戸長ノ内ニテ取調地方官長聞届ノ上ハ藥劑及賄共官費ノ事

但寄留ノ者ハ身元引受人ヨリ可相納ト雖モ貧困ニシテ止ムテ得サル者或ハ旅人行倒等ノ如キハ醫員検査地方官聞届ノ上官費タルヘシ  
一 御扶助有之移住民藥劑官費ノ事  
但入院ノ者ハ御扶助米并摺摺料相納ヘキ事

一 御雇外國人賄官費ノ者ハ藥劑共官費自分賄ノ者ハ旅行滯留共自費ノ事  
一 患者賄料一人ニ付一日玄米五合一勺金九錢ツツト相定請負ノ者ヘ下ケ渡スヘキ事  
一 藥劑價并入院料一箇月ツツ取纏上納スヘキ事

但本院ヘハ明細表ノミ差出スヘキ事  
前條之通確定候事

明治八年

札幌本廳勇拂石狩出張病院并濱益派出所ヲ札幌病院ニ直轄ス

開拓使札幌本廳達 八年二月二十五日  
勇拂石狩出張病院并濱益派出名稱ヲ廢シ自今本廳病院直管ト相定候條爲心得此旨相達候事

札幌本廳札幌病院教授課ヲ廢止ス

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日  
其院中教授課廢止候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日  
今般御詮議ノ次第有之當病院教授課被廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日  
今般御詮議ノ次第有之當病院教授課被廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄録

札幌本廳醫務課長國有珠郡紋羅村ニ室蘭出張病院派出所ヲ設置ス

開拓使事業報告抄録  
室蘭出張病院有珠派出病院 膽振國有珠郡紋羅村ニアリ  
明治八年三月創設室蘭出張病院有珠派出病院ト稱ス

札幌本廳病院部下ケ藥劑價ヲ更正ス

開拓使札幌本廳達 八年四月二十九日  
病院ニ於テ拂下ケ藥劑價更正候ニ付別紙之通當市在ヘ布達候條其所轄ニ於テモ同様施行可致此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年四月二十九日  
病院ニ於テ拂下藥劑價別記之通更正來ル五月一日ヨリ施行候條爲心得此旨相達候事  
(別記)

更正藥劑價

水藥	一日分	金三錢
丸藥	同	同同斷
散藥	同	同同斷
外用藥	同	同同斷
煎藥	同	同一錢
服藥	同	同同斷
膏藥	同	同同斷
右之通		

開拓使事業報告抄録

明治八年六月天壤國留萌郡留萌村増毛郡増毛村苫前郡苫前村北見國宗谷郡宗谷村利尻郡字「オシトマ」五病院皆本廳ニ屬ス(留萌支廳廢止ニ由ル)

- (參考)
- 留萌病院 明治五年四月設立八年四月札幌病院所轄トシ留萌出張病院ト稱ス
  - 増毛病院 明治五年四月設置八年四月札幌病院ニ屬シ留萌出張病院増毛派出病院ト稱ス
  - 苫前病院 明治五年四月創設八年四月札幌病院ニ屬シ留萌出張病院苫前派出病院ト稱ス
  - 宗谷病院 明治二年十一月創設八年六月札幌病院ニ屬シ宗谷出張病院ト稱ス
  - 利尻病院 明治七年七月創設八年六月札幌病院ニ屬シ宗谷出張病院利尻派出病院ト稱ス

開拓使札幌本廳達

開拓使札幌本廳達 八年六月二十日  
其出張病院自今留萌出張病院派出病院ト相定候事  
開拓使札幌本廳達 八年六月二十日

留萌支廳廢止ニヨリ留萌外四病院ヲ札幌病院ニ屬シ其名稱ヲ改ム  
十年一月二十四日札幌本廳達無誤ヲ以テ増毛病院出張所ヲ廢ス  
九年四月札幌本廳達乙第五十三號ヲ以テ名稱ヲ改ム  
留萌支廳廢止ハ開拓使八年三月十三日無誤ヲ以テ達スル所ナリ官廳門地方官制ノ日ニ載ス

札幌本廳増毛苫前兩出張所ヲ留萌出張病院派出病院トス

增毛苦前兩出張病院自今其出張病院派出病院ト相定候事

開拓使札幌本廳達 八年六月二十日 無利尻禮文出張病院

其出張病院自今宗谷出張病院派出病院ト相定候事

開拓使札幌本廳達 八年六月二十日 無利尻禮文出張病院

利尻禮文出張病院自今其出張病院派出病院ト相定候事

開拓使事業報告抄錄

八年六月積丹出張病院ヲ古平郡出張病院ニ併ス

開拓使事業報告抄錄

八年六月小樽出張病院ヲ小樽病院派出所ト改稱ス

開拓使札幌本廳達 八年七月二十四日 禮文郡へ派出病院設置候處以來廢止候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年八月三十一日

今般余市古平兩出張所相廢同地方民事局所轄相成候ニ付兩所出張病院相廢其病院出張所ト相定候條此旨可相心得事

札幌本廳利尻禮文兩出張所ヲ宗谷出張病院派出病院トス

札幌本廳積丹出張病院ヲ古平出張病院ニ併ス

札幌本廳小樽病院ヲ札幌病院派出所トス

十五年一月札幌本廳達第四號ヲ以テ廢ス

札幌本廳禮文出張病院ヲ廢止ス

札幌本廳余市古平兩出張病院ヲ札幌病院派出所トナス

十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ古平出張所ヲ廢ス

十五年一月同達第四號ヲ以テ余市出張所ヲ廢ス  
余市古平兩病院ハ五年九月日開設區スル所ナリ

札幌本廳室蘭出張病院ヲ札幌病院派出所ト改稱ス

札幌本廳石狩國札幌郡琴似村ニ札幌病院派出所ヲ設置ス

十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ廢止ス  
九年四月札幌本廳達乙第百五十三號ヲ以テ改稱ス

札幌本廳山越出張病院派出病院ヲ院出張所ト改稱ス

九年九月札幌本廳達乙第百十三號ヲ以テ改稱ス  
九年五月札幌本廳達乙第百六十四號ヲ以テ事務體裁ノ備ヲ改正ス

開拓使事業報告抄錄

八年九月室蘭出張病院ヲ室蘭病院出張所ト改稱ス

開拓使事業報告抄錄

琴似病院派出所 石狩國札幌郡琴似村ニアリ

明治八年十一月設置琴似病院派出所ト稱シ專ラ屯田兵患者ヲ治療ス

開拓使札幌本廳達 乙第百五十三號各局校院 各出張所各詰所

今般章程頒布ニ付各出張所詰所病院等名稱其他別紙兩表朱書之通改定候條此旨相達候事

此線ヨリ以下朱書

持	河	浦	持	内	靜	名	稱	所在地
廣尾	幌泉	浦河	沙流	靜内	靜内	廣尾	幌泉	浦河
尾派	泉派	河出張	流出張	内出張	内出張	尾派	泉派	河出張
呂村	泉村	河村	別村	下村	下村	呂村	泉村	河村
代	幌	浦	沙	靜	靜	代	幌	浦
茂	幌	浦	沙	靜	靜	茂	幌	浦
代	泉	河	流	内	内	代	泉	河
呂	泉	河	別	下	下	呂	泉	河
村	村	村	村	村	村	村	村	村
廣尾	幌泉	浦河	沙流	靜内	靜内	廣尾	幌泉	浦河
病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院
出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張
所	所	所	所	所	所	所	所	所
廣尾	幌泉	浦河	沙流	靜内	靜内	廣尾	幌泉	浦河
病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院
出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張	出張
所	所	所	所	所	所	所	所	所



本院							宗谷		留萌		岩内		
室蘭病院出張所	勇拂病院出張所	古平病院出張所	余市病院出張所	小樽病院出張所	石狩病院出張所	濱益病院出張所	利尻病院出張所	宗谷出張病院	苦前病院出張所	増毛病院出張所	留萌出張病院	古宇出張病院	岩内出張病院
室蘭港郡	苫小牧郡	古平村郡	黒川村郡	小樽見樽臺郡	石狩天町郡	濱益村郡	利尻郡	宗谷郡	苦前村郡	増毛村郡	留萌村郡	古宇内村郡	岩内御峰町郡
管主病院													
室蘭病院出張所	勇拂病院出張所	古平病院出張所	余市病院出張所	小樽病院出張所	石狩病院出張所	濱益病院出張所	利尻病院出張所	宗谷病院出張所	苦前病院出張所	増毛病院出張所	留萌病院出張所	古宇病院出張所	岩内病院出張所

札幌本廳病院名稱改正  
 表申テ改正ス  
 九年九月札幌本廳達乙第  
 百十三號ヲ以テ名稱ヲ改

開拓使札幌本廳達乙九年五月八日各局校院分署  
 本年四月十九日乙第五十三號ヲ以テ各出張所其他改稱等ノ儀相達候處各所病院ノ分詮議ノ次第有之別  
 紙表朱書之通更正候條此旨相達候事

表申△印ノ朱書

持室 有珠派出病院	持室 有珠派出病院
琴似病院派出所	琴似病院派出所
琴札似幌村郡	紋有別珠村郡
有珠病院出張所	有珠病院出張所
琴似病院出張所	總テ是迄ノ如シ

本廳						改		定	
岩内		河浦		静内		名		事	
古宇病院出張所	岩内病院出張所	廣尾病院出張所	幌泉病院出張所	浦河病院出張所	沙流病院出張所	静内病院出張所	名	事務ノ體裁	
△醫務ハ主治課事務課兼動ノ事務ハ分署ニテ取扱該院 ニ付テノ公文ハ廳病院長ニ申等ニ係ルコトハ本病院出張 所ノ名ヲ署シ本廳病院ヲ宛凡テ受付課ヲ經差出スヘ シ									

管 直 院 病												
	室 蘭 包 括				小 樽 包 括		石 狩 包 括		宗 谷 包 括		留 萌 包 括	
琴似病院出張所	有珠病院出張所	室蘭病院出張所	勇拂病院出張所	古平病院出張所	余市病院出張所	小樽病院出張所	濱益病院出張所	石狩病院出張所	利尻病院出張所	宗谷病院出張所	苫前病院出張所	留萌病院出張所
總て是迄ノ如シ												

札幌本廳各郡病院出張所藥劑價及賄料等ノ取立金取扱方

札幌本廳山鼻村へ病院出張所ヲ設置ス  
九年八月札幌本廳達丙第百十八號ヲ以テ廢ス

札幌本廳山鼻村病院假出張所ヲ廢ス

札幌本廳札幌空知通ニ札幌病院附屬傳染病室ヲ設ク

札幌本廳病院名稱ヲ改正ス

開拓使札幌本廳達 九年五月十四日 各郡病院出張所藥劑價及賄料等取立金は迄當病院へ差越猶當院ヨリ會計掛へ爲相納來候得共遠隔往復且納方區區ニ相成候テハ混雜不少ニ付向後ハ其地方出張所へ爲相納同所ヨリ本廳會計局へ上納可致事

開拓使札幌本廳達 九年五月二十三日 山鼻村へ當分病院出張所設置候條此旨爲心得相達候事

開拓使札幌本廳達 九年五月二十三日 山鼻村へ當分其院假出張所設置候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 九年八月十七日 山鼻村病院假出張所詮議ノ次第有之相廢候條今後兵員發病報告ノ節ハ其時時醫員出張診察候儀ト可相心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄錄

明治九年八月札幌空知通官舎二棟ヲ札幌病院附屬傳染病室トス是ヨリ先キ札幌病院附屬傳染病室ヲ石狩ニ置ク此ニ至テ廢ス

開拓使札幌本廳達 九年九月十二日 本年八月乙第六十四號病院名稱ノ儀相達候處詮議ノ次第有之更ニ別記ノ通改稱候條此旨相達候事

(別記)

札幌病院靜内出張所  
 札幌病院幌泉出張所  
 札幌病院古宇出張所  
 札幌病院苫前出張所  
 札幌病院濱益出張所  
 札幌病院余市出張所  
 札幌病院室蘭出張所

札幌病院沙流出張所  
 札幌病院廣尾出張所  
 札幌病院留萌出張所  
 札幌病院宗谷出張所  
 札幌病院石狩出張所  
 札幌病院古平出張所  
 札幌病院有珠出張所

札幌病院浦河出張所  
 札幌病院岩内出張所  
 札幌病院増毛出張所  
 札幌病院利尻出張所  
 札幌病院小樽出張所  
 札幌病院勇拂出張所  
 札幌病院琴似出張所

札幌本廳病院規則中入院料價目官費ノ取リ廢ス

開拓使札幌本廳達 乙第九年十月二十九日 各局分署  
 病院規則中入院料藥劑價官費ノ廉詮議ノ次第有之相廢シ候條來ル十一月一日ヨリ關係ノ各局課ニ於テ經費ニ組込仕拂相立月月病院係へ戻入可取計此旨相達候事  
 但本文ニ係ル金額ハ病院豫算中ニ調製有之候事

札幌本廳勇拂琴似病院出張所ヲ本廳病院所轄トシ石狩濱益出張所ヲ包廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 勇拂 琴似 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今本院所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 石狩 濱益 病院 出張所  
 其出張所自今本院ノ包轄ト可相心得此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 病院  
 勇拂琴似病院出張所相廢シ其院所轄ト相定及ヒ石狩濱益病院出張所其包轄ト可相心得此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 石狩 濱益 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今室蘭病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳有珠病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 有珠 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今室蘭病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳沙流病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 沙流 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 靜内 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今靜内病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 廣尾 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌病院廣尾病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 廣尾 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今幌泉病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 幌泉 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今留萌病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳增毛病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 增毛 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今留萌病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 留萌 病院 出張所  
 增毛病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳古平病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 無號 古平 病院 出張所  
 其出張所相廢シ自今余市病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 無號 余市 病院 出張所  
 古平病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳古宇病院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日  
其出張所相廢シ自今岩内病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事  
開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日  
古宇病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳靜内病院ヲ札幌病院包摂トス

開拓使本廳達 十年三月六日  
其出張所自今本院ニ於テ包轄候條此旨相達候事  
開拓使本廳達 十年三月六日  
靜内病院出張所自今其院ニ於テ包轄可致此旨相達候事

札幌本廳石狩國札幌郡對雁村ニ札幌病院派出所ヲ設置ス

開拓使事業報告抄録  
札幌病院對雁派出所 石狩國札幌郡對雁村ニアリ  
明治十年十二月設立札幌病院對雁派出所ト稱ス

札幌本廳後志國小樽郡入船町ニ小樽出張所派出所ヲ設置ス  
十五年一月札幌本廳達可第四號ヲ以テ小樽出張所ヲ廢ス

開拓使事業報告抄録  
小樽入船町派出所 後志國小樽郡入船町ニアリ  
明治十三年十二月設置札幌病院小樽出張所入船町派出所ト稱シ入院ヲ許ス  
開拓使札幌本廳達 十五年一月十九日  
札幌病院小樽余市岩内三出張所二月二十八日限り廢止候條此旨相達候事  
開拓使札幌本廳達 十五年一月十九日  
同小樽出張所 同余市出張所 同岩内出張所

札幌縣札幌病院職制  
十九年四月北海道廳達可第四號ヲ以テ廢止ス  
十七年七月二十八日札幌縣達無號ヲ以テ札幌病院院則ヲ定ム

其部内札幌病院 小樽并余市岩内 出張所本年二月二十八日限り廢止候條公立或ハ私立病院設置ノ維持方法相定至急可申出此旨相達候事

札幌縣達 十七年七月二十八日  
札幌縣立札幌病院  
其院院長以下職制章程別紙ノ通相定明治十五年五月一日無號衛生課ヘノ達ハ廢止候條此旨相達候事  
札幌病院職制

院長 一人

第一 院務ヲ總理シ専ラ患者ノ診斷治療ヲ掌ル

第二 院中諸員ノ能否勤怠ヲ查察シ進退黜陟ヲ衛生課長ニ協議ノ上縣令ニ具申スルヲ得

第三 衛生事項ニ付意見ヲ縣令ニ開申スルヲ得

副院長 一人

職掌院長ニ亞ク

主治部長 一人

部中ノ事務ヲ主宰シ患者ノ診斷治療ノ事ヲ擔任ス

當直醫 無定員

患者ノ診察治療ヲ分擔ス

藥劑部長 一人

部中ノ事務ヲ主宰シ藥物試檢ノ事ヲ擔任ス

調劑員 無定員

藥劑調合ノ事ヲ分擔ス

理事部長 一人

第一 院中ノ常務會計ヲ管理ス

- 第二 部員ノ能否勤怠ヲ查察シ進退黜陟ヲ院長ニ協議スルヲ得
  - 第三 院中ノ經濟ヲ審察シテ縣令ニ開申スルヲ得
- 事務係 無定員  
院中常務會計ヲ處辨ス

札幌縣札幌病院規則

札幌縣達 無<sup>十七</sup>年七月二十八日 縣立札幌病院

其院則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

縣立札幌病院院則

第一編 職務心得  
第一章 總則

- 第一條 本院ハ專ラ患者ノ診察治療ヲ掌リ兼テ醫術ノ改良ヲ圖リ衆庶殃夭ノ患ナカラシムルヲ要ス
- 第二條 内外患者ニ接スルハ勿論總テ懇篤丁寧ニ攝生法ヲ示諭スヘシ
- 第三條 院內ニ主治部藥劑部理事部ヲ置キ諸務ヲ分掌ス
- 第四條 院中ノ諸務ハ職制章程ニ從ヒ之ヲ調理シ勉テ權限規程ヲ愆ルヘカラス
- 第五條 病室ハ當分傳染病諸病娼妓及救療ノ四部ニ區分ス
- 第六條 外來患者ヲ診察スルハ診察所ニ於テシ入院患者ハ其病床ニ於テスヘシ
- 第七條 參退院時限及休日ハ本縣ニ準ス
- 第八條 施治ノ患者ハ姓名年齡病症全愈死亡等ヲ處方錄及ヒ病床日誌ニ詳記シ置クモノトス
- 第九條 藥價及入院料ハ明治十七年一月廣告ノ通り徵收スヘシ
- 第十條 入院ヲ願フ者ハ第七十六條ニ定ムル所ノ入院證書ヲ差出サセ不都合ナキ者ハ之ヲ許可スヘシ  
但官署ノ照會ニ依テ入院セシムルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 院長副院長醫員ハ自宅治療スルヲ許サズ

但急病等ニテ患者ノ請ニ應シ一時之ヲ診察スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ處方箋ハ必ス本院ニ送ルモノトス

- 第十二條 醫事ニ關スル統計諸表ハ各其成規ニ從ヒ精密注意ヲ加ヘ期限ヲ愆ラサル様調製スルモノトス

第二章 正副院長

- 第十三條 院長ハ午前ニ入院患者ヲ回診シ午後ハ外來患者ヲ診察スヘシ
- 第十四條 正副院長ハ大患劇症ニシテ出院スルコト能ハサル者ハ道ノ遠近ヲ問ハス其病家又ハ公私立病院及院醫ノ請ニ應シ往診スヘシ
- 第十五條 院長ハ主治部長以下醫員ノ往診等ハ都合ヲ計リ之ヲ命スヘシ

第三章 院長附書記

- 第十六條 正副院長ノ指揮ヲ受ケ醫事ニ係ル一切ノ筆記ヲ掌ルヘシ
- 第十七條 奇疾異病將來ノ參考ニ供スヘキモノハ正副院長ノ指揮ヲ受ケ體質症候原因經過豫後等詳細ニ治驗錄ヘ記載シ置クヘシ
- 第十八條 醫事ニ關スル一切ノ往復文ヲ草シ院長ノ決ヲ取り處辨スヘシ
- 第十九條 院有ノ圖書ヲ管守シ毎月之ヲ調査シ新調ヲ要スルカ或ハ破損等アルトキハ其由ヲ理事部ニ申出ヘシ

第四章 主治部長

- 第二十條 院長ノ指揮ヲ受ケ部中ニ關スル一切ノ諸務ヲ主宰シ併テ部員ヲ督勵スヘシ
  - 第二十一條 毎日外來患者ノ診察ヲ負擔シ當直及外來患者ノ往診ニ從事スヘシ
  - 第二十二條 正副院長事故アリテ參院セサルトキハ入院患者ヲ代診スヘシ
  - 第二十三條 醫員ヨリ毎月出ス所ノ諸表ヲ調査シ翌月七日限り院長ニ差出スヘシ
- 第五章 當直醫

第二十四條 主治部長ヲ輔佐シ外來患者ヲ診察シ兼テ當直往診ニ從事スヘシ  
 第二十五條 主治部長事故アリテ參院セサルトキハ首座ノ者代理シテ諸務ヲ處辨スヘシ  
 第二十六條 内外患者ノ處方録及處方箋ヲ專掌シ毎月各自負擔スル所ノ患者表ヲ製シ翌月五日限り主治部長ニ差出スヘシ

第六章 藥劑部長

第二十七條 部中ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任シ併テ部員ノ勤惰ヲ監督スヘシ  
 第二十八條 調劑員ヲ指揮シ專ラ配劑ニ注意シ過誤ナカラシムルヲ要ス  
 第二十九條 藥品ノ良否ヲ覈査シ及製藥ニ從事スヘシ  
 第三十條 部中ノ器械原簿ヲ製シ置キ購入又ハ毀損ノ都度其増減ヲ明記シ置クヘシ  
 第三十一條 藥品及ヒ器械購入又ハ修繕ヲ要スルトキハ其品目數量ヲ記載シ理事部ヘ差出スヘシ  
 第三十二條 緩劑ハ普通ノ棚上ニ安置シ妨ケナシト雖モ劇劑ハ棚ヲ異ニシ鎖鑰ヲ嚴ニシ出納ノ際尤モ注意ヲ要スヘシ

第三十三條 藥品ノ増減ハ各品種ヲ分チ月表ヲ製シ翌月七日限り院長ニ差出スヘシ

第七章 調劑員

第三十四條 藥劑部長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ從事スヘシ  
 第三十五條 調劑ノ節ハ能ク處方箋ヲ點檢シ毫モ品物秤量ヲ誤ラサル様慎密ニ注意スヘシ  
 第三十六條 調劑了ラハ其處方箋ヲ再檢シ藥品并秤量ニ誤錯ナキヲ認メ其處方箋ニ捺印シ然ル後之ヲ患者ニ附與スヘシ  
 第三十七條 處方ノ藥品配合用量ニ不審ノ廉アルトキハ藥劑部長ノ指揮ヲ受クヘシ  
 第三十八條 患者ニ與フル劇藥ハ其服法等ヲ懸示シ誤用ナカラシムルヲ要スヘシ  
 第三十九條 處方箋ニ筆記者及ヒ藥價領收濟ノ檢印ナキモノハ調劑スヘカラス

第八章 理事部長

第四十條 金銀出納順序等ハ本縣ノ成規ニ從フヘシ  
 第四十一條 院内事務ノ利害得失ニ付テハ直ニ之ヲ縣令ニ具陳スルコトヲ得

第九章 事務係

第四十二條 院務ニ係ル諸申牒及往復ノ文書ヲ掌ルヘシ  
 第四十三條 本院ノ印章ヲ監守スヘシ  
 第四十四條 職員録及ヒ履歷簿ヲ調製スヘシ  
 第四十五條 諸帳簿及諸表ヲ整理スヘシ  
 第四十六條 院中諸員ノ諸願伺届ヲ調理スヘシ  
 第四十七條 掃除夫ヲ使役シ内外不潔ヲラサル様注意スヘシ  
 第四十八條 各病室ヲ巡視シ之レカ取締ヲナスヘシ  
 第四十九條 患者處方箋ヲ指出ストキハ藥價ヲ收入シ藥價收入簿ト藥價濟ノ割印ヲ捺押スヘシ  
 第五十條 入院患者ヨリ其入院料ヲ納付スルトキハ帳簿ニ記入シ本人ヘ領收證ヲ渡スヘシ  
 第五十一條 受付差立ノ二簿ヲ製シ置キ往復文書ノ表書又ハ頭書ヲ洩レナク登記スヘシ  
 第五十二條 公布公達及ヒ本縣布達廣告等ノ類ハ回達又ハ保存スヘシ  
 第五十三條 各所ヨリ到達ノ文書ハ其主任ニ回付シ受付簿ニ認印ヲ取ルヘシ  
 第五十四條 本院ヨリ發遣ノ文書ハ各課署及ヒ札幌市内ハ小使ヲ以テシ各地ノ分ハ郵送スヘシ  
 第五十五條 應接ハ總テ丁寧ヲ旨トシ且ツ速ニ諸務ヲ處辨スルヲ要ス

第十章 看護人心得

第五十六條 入院患者アルトキハ當直醫員ヨリ處方箋ヲ受ケ患者ノ爲メニ調劑ヲ請フヘシ  
 但退院患者ノ處方箋ハ即日當直醫員ヘ返付スヘシ  
 第五十七條 患者ノ衣服寢具及療用器械藥瓶等ニ注意シ不潔ナカラシムヘシ  
 第五十八條 室内浴室便所等ハ清潔掃除ヲ加ヘ汚穢ノ繙帶等ハ洗滌スヘシ

第五十九條 時々窓戸ヲ開キ空氣ノ流通ヲナスヘシ  
 第六十條 病室所屬ノ物品ハ凡テ記帳シ置キ毎月末主治部ノ検査ヲ受クヘシ  
 第六十一條 入室見舞人ヨリ受ケタル證票ハ毎夕當直醫員ニ還付スヘシ  
 第六十二條 毎朝夕患者ノ員數ヲ調ヘ當直醫員ニ申出ツヘシ  
 第六十三條 交互徹夜シ火ノ元ハ勿論患者ノ安否ヲ巡視シ異狀アラハ速ニ當直醫員ヘ申告スヘシ  
 第六十四條 非番ノ者外出セントスルトキハ當直醫員ノ許可ヲ受クヘシ

第二編 雜例

第一章 當直心得

第六十五條 毎日退散時限ヨリ翌日參院時間迄及休日トモ左ノ人員當直スヘシ

當直醫 二名

調劑員 一名

事務係 一名

第六十六條 日誌ヲ製シ置キ當直中ノ事件ヲ記載シ交代ノ節引繼クヘシ

第六十七條 當直中醫員ノ職掌ヲ二類ニ分チ一名ハ一類ノ係リニ當リ一名ハ二類ノ係リニ當ルモノトス

第一類 外來患者係

第一項 各醫員退散後及ヒ休日ノ外來患者ヲ負擔シ并急往診ニ當ルモノトス

第二項 定員當直ノ外外來患者往診ノ爲メ豫備員ヲ定メ置キ急往診ヲ請フモノ一時ニ二名以上アルトキニ際シ其豫備員ニ急報シテ臨時之レカ處置ヲナスヘシ

第二類 病室係

第一項 病室内ヲ巡視シ患者ノ病狀ヲ診査スルモノトス

第二項 院長入院患者ヲ回診スルトキハ隨從シテ前日ノ病狀ヲ具陳スヘシ

第三項 院長退院ノ後入院患者ニ異狀アルトキハ外來患者係ト協議ヲ遂ケ適應ノ手當ヲ爲シ置キ翌日院長出頭ノ節速ニ具陳スヘシ

第四項 患者危篤ニ迫ルトキハ速ニ院長并理事部ニ報告スヘシ

第五項 每次入院患者ノ食餌ヲ検査スヘシ

第六項 患者ノ見舞トシテ飲食物ヲ持參スルモノアルトキハ點檢ノ上無害品ハ之ヲ許シ有害品ハ之ヲ斥クヘシ

第七項 入院患者退院ヲ請フトキハ其病症ヲ點檢シ院長ノ指揮ヲ受ケ理事部ヘ通牒ノ上退院證ヲ付與スヘシ

第八項 入院患者已ヲ得サル事故アリテ外出ヲ請フトキハ其病症ニヨリ之ヲ許否スヘシ

第六十八條 當直者ハ鍵箱及用度品ヲ管守スヘシ

第六十九條 當直者ハ看護人及小使掃除夫等ノ勤怠ヲ視察シ且ツ院ノ内外ヲ問ハス其取締ニ注意スヘシ

第七十條 院中非常ノ事故アルトキ小事ハ當直者協議ノ上臨時之ヲ處分シ大事ハ院長又ハ理事部長ニ急報シテ指揮ヲ乞フヘシ

第二章 器械取扱心得

第七十一條 當直醫ノ内數名ヲ以テ器械取扱係ト定メ治療器械ノ臺帳ヲ調製シ現在器械ノ數ヲ登録シ置クモノトス

第七十二條 器械ハ少ナクモ毎月一回以上調査シ丁寧淨拭スヘシ若シ錆蝕毀損等アルトキハ補理ノ手續ヲナシ其増減ヲ明記シ置クモノトス

第七十三條 器械取扱係ハ手術執行ノ節院長ノ指揮ヲ受ケ需用ノ諸器械ヲ取揃フヘシ但執行終ル後能ク淨拭シ置クモノトス

第七十四條 器械取扱係ハ器械ノ購入ヲ要スルトキハ其品名數量ヲ明記シ之ヲ理事部ニ差出スヘシ

第七十五條 諸器械ハ往診醫員携帶ノ外一切院外ニ出スヘカラス

第三章 入院患者心得

第七十六條 入院治療ヲ請ハント欲スルモノハ札幌市街在住ノ戸主タル者ヲ保證人トシ左ノ書式證書ヲ理事部ヘ差出スヘシ

入院證 (印紙貼用)

札幌縣何郡何村番地(居住) (借家) (同居) (寄留)  
(寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

身分職業

何

年

誰

右今般<sup>上等</sup>入院御治療相願候ニ付本人身元ノ儀ハ保證人ニ於テ一切引受御規則爲相守候ハ勿論入院

料等十日毎ニ可相納萬一本人相滞リ候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候依之證狀如件

年月日

右願人

何

年

誰

札幌區北何條東何町目何番地

身分職業

何

年

誰

縣立札幌病院

御 中

寄留ノ者ハ保證人二名以上タルヘシ

第七十七條 保證人トナリタル者ハ札幌市外ニ轉籍又ハ寄寓スル時ハ更ニ保證人ヲ立テ前條ノ例ニ依ルヘシ

第七十八條 外科手術ヲ請フ者ハ左ノ書式ノ證書ヲ差出スヘシ  
外科手術依託證 (印紙貼用)

肩書第七十六條ニ同シ

何

年

誰

右ハ何病ニ罹リ手術治療御依託候ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相出候共聊カ遺憾無之候依テ保證人連署證狀如件

年月日

右手術願人

何

年

誰

肩書前ニ同シ

何

年

誰

縣立札幌病院

御 中

第七十九條 入院料ハ毎月十日ノ日之ヲ理事部ニ納ムヘシ

第八十條 入院中禁忌攝生運動靜息等ハ總テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

第八十一條 入院中患者ハ勿論保護人等ハ病室内ニ於テ放歌又ハ高聲ノ談話ヲナスヲ許サス

第八十二條 入院患者ノ回診ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス此時間ハ在室スヘシ

第八十三條 正副院長回診ノ後變症アルトキハ直ニ當直醫員ヘ申立ツヘシ

第八十四條 已テ得サル事故アリテ外出セント欲スルトキハ其事由ヲ當直醫員ニ告ケ許可ヲ受クヘシ

但歸院ハ午後十時限リトス

第八十五條 門限後猥リニ出入ヲ禁ス若シ已テ得サル事故アルモノハ當直醫員ノ許可ヲ受クヘシ

第八十六條 休日ハ電機療法及諸手術ハ總テ休止スヘシ

但大患急症ハ此限ニアラス

第八十七條 不得已事故アリテ一時外宿セントスル者ハ保證人ヨリ願出許可ヲ受クヘシ

第八十八條 退院セントスル者ハ午前八時ヨリ正午十二時迄ヲ限リ當直醫員ニ申出其證書ヲ受ケ入院



料ヲ納ムヘシ

但至急事故アリ退院ノ節時間ニ限ラスト雖モ必ス本條ノ手續ヲ踐ムヘシ  
 第八十九條 浴湯ハ看護人ノ通知ヲ得混雜セサル様入浴スヘシ  
 第九十條 看護者ヲ備入ルカ又ハ家族親戚等ノ看護ヲ願フ者ハ其意ニ任スヘシト雖モ二人以上在室セシムルヲ許サス

但不得已事故アル者ハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第九十一條 當直醫員ノ許可ヲ得シテ飲食物ヲ供用スルコトヲ許サス

第九十二條 入院中相互ニ金品ヲ貸借スルコトヲ禁ス

第九十三條 看護人及小使等ヘ贈遺ヲナスヘカラス

第九十四條 出火及非常ノ節ハ當直吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第九十五條 入院中金錢及重要ノ物品ハ成ルヘク理事部ニ預ケ置クヘシ

第九十六條 此章ニ定メタル規則ヲ遵守セサル者ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 外來患者心得

第九十七條 診察時間ハ五月一日ヨリ七月十日迄午前八時ヨリ午後二時迄七月十一日ヨリ九月十日迄

午前八時ヨリ正午十二時迄九月十一日ヨリ十月三十一日迄午前八時ヨリ午後二時迄十一月一日ヨリ

翌年四月三十日迄午前九時ヨリ午後三時迄トス

但時間前後及休日ハ當直醫員ニ於テ診察スヘシ

第九十八條 診察順序ハ參院ノ前後ヲ以テス

但急症ハ此限ニアラス

第九十九條 急症ニシテ參院シ難キモノハ往診治療ヲ乞フコトヲ得ヘシ

第五章 見舞人心得

第一百條 患者ニ面會セント欲スル者ハ主治部ニ申立ツヘシ

但入室ヲ許ストキハ證票ヲ與フヘキニ付入室ノ際ハ之ヲ看護人ニ渡スヘシ

札幌縣病院患者處方録保存方

札幌縣達 無七十七年十月二十四日  
 處方録保存ノ儀ニ付別紙乙第二百五十四號ノ通郡區役所ヘ相達候條其院ニ於テモ同様可相心得此旨相達候事

札幌縣達 乙十七年十月二十四日 區役所

公私立病院并開業醫師ニ於テ取扱タル患者ノ處方録ハ必ス三十六箇月間保存可致置旨達方可取計此旨相達候事

北海道廳 札幌函館根室病院職制

北海道廳達 十九年四月十三日  
 札幌函館根室病院職制左ノ通制定ス  
 右相達ス

病院職制

第一條 病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

副院長 一人

當直醫 若干員

藥劑監督 一人

藥劑員 若干員

書記 若干員

第二條 各病院ニ院長アレハ副院長ヲ置カス副院長アレハ院長ヲ置カサルコトアルヘシ

第三條 院長ハ院務ヲ總理シ兼テ診察治療ノ事ヲ掌ル

第四條 院長ハ院中職員ノ能否勤怠ヲ查察シ其進退ヲ具狀スルヲ得

- 第五條 院長ハ衛生事項ニ付意見ヲ具狀スル事ヲ得
- 第六條 副院長ハ院長ノ職務ヲ佐ク若シ院長ナキトキ又ハ院長事項アルキハ院長ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ診察治療ニ従事ス
- 第八條 藥劑監督ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑及藥物試驗ノコトヲ監督ス
- 第九條 藥劑員ハ調劑監督ノ指揮ヲ受ケ調劑及藥物試驗ニ従事ス
- 第十條 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ書記帳簿計算ニ従事ス

北海道廳令 第二十一年六月八日

北海道廳令 第二十一年六月八日  
明治十九年四月丙第四號病院職制第一條當直醫ヲ醫員ト改ム

北海道廳令 第二十一年八月十八日

北海道廳令 第二十一年八月十八日  
札幌病院職制左ノ通定ム

札幌病院職制

第一條 札幌病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

副院長

醫局長

醫員

藥局長

藥劑員

第二條 院長ハ院中ノ醫務ヲ總理ス

第三條 院長ハ所屬職員ヲ指揮監督シ其能否勤怠ヲ具狀スルコトヲ得

北海道廳令 第二十一年九月  
札幌病院職制ヲ定ム  
二十一年九月北海道廳令第  
八十四號ヲ以テ札幌病院  
事務員職制ヲ定ム

北海道廳令 第二十一年九月三日

北海道廳令 第二十一年九月三日  
札幌病院事務員職制左ノ通定ム

札幌病院事務員職制

第一條 札幌病院庶務會計ノ事務ヲ管理スル爲メ左ノ職員ヲ置ク

事務長

書記

第二條 事務長ハ命ヲ本廳第一部長ニ承ケ庶務會計ノ事務ヲ掌理ス

第三條 書記ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ書記簿記及計算ニ従事ス

北海道廳令 第二十一年十月六日

北海道廳令 第二十一年十月六日  
其院則左ノ通定ム

札幌病院院則

第一章 汎則

第一條 本院ノ病室ヲ別テ左ノ五種ト爲ス

- 第一 内科病室
- 第二 外科病室
- 第三 婦人病室
- 第四 眼科病室
- 第五 傳染病室
- 第二條 患者診察及ヒ院長以下參退院時限ハ必要ニ應シ其時時本院ニ於テ之ヲ廣告ス可シ
- 第三條 入院及外來患者ハ其輕重難易ニ從ヒ院長自ラ之ヲ診察治療シ又ハ醫局長醫員ニ指示シ之カ診察治療ヲ爲サシムヘシ
- 第四條 藥品器械ノ購求等醫局長又ハ藥局長ノ申立ニヨリ院長ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ之ヲ事務長ニ通牒シ購入ノ手續ヲ爲ス可シ
- 第五條 一切ノ診斷書及死亡證書ハ院長ニ於テ認許ノ上之ヲ發付スヘシ
- 第六條 施治患者諸表ハ醫局長之ヲ調製シ院長ノ調査ヲ受ク可シ
- 第七條 入院患者ノ病狀ハ院長ノ回診ニ陪從シタル醫局長若クハ醫員ニ於テ詳細病床日誌ニ登錄シ患者ノ外床ニ備ヘ置ク可シ
- 第八條 院長手術ノ際使用スル所ノ器械物品等ハ手術ノ介補ニ當レル醫局長若クハ醫員ニ於テ之ヲ處置スヘシ
- 第九條 醫療器械ノ保管ハ院長ノ指定シタル醫員之ヲ擔當スヘシ
- 第十條 患者退院ヲ請フ者アルトキハ醫局長又ハ醫員ニ於テ能ク其病狀ニ注意シ倘ホ途中急變ノ虞アリト思料スルトキハ保證人又ハ親戚ニ示諭シテ退院セシムルコトヲ得
- 第十一條 受持患者ノ診斷書又ハ死亡證ヲ醫局長又ハ醫員ニ於テ作ルトキハ自ラ之ニ記名認印シ後チ之ヲ院長ニ差出可シ
- 第十二條 處方箋ノ筆記ハ醫局長又ハ醫員ニ於テ掌リ筆記者之ニ認印シ又藥劑服用ノ方法等懇篤患者

ニ指示ス可シ

- 第十三條 藥品ノ眞實良否及調劑適否ハ藥局長ニ於テ鑑別検査シ努メテ過誤ナキヲ要ス可シ
- 第十四條 藥品ノ所在ハ藥局長ニ於テ之ヲ定メ標紙ヲ付シ分類錯雜ナキヲ要スヘシ
- 第十五條 調劑器械ノ保管ハ院長ノ指定シタル藥劑員之ヲ擔當スヘシ
- 第十六條 藥品配伍ノ秤量ハ常ニ注意シ苟モ過誤ナキヲ要スヘシ
- 第十七條 患者ニ與ワル藥瓶ノ標紙ハ内服用外用其色ヲ異ニシ用法ヲ明記シ誤用ナカラシムルヲ要ス可シ
- 但毒劇藥ナルトキハ特ニ注意ス可シ
- 第十八條 處方ノ藥品配伍ノ分量藥劑員ニ於テ不審ノ廉アリト思料スルトキハ藥局長ノ指揮ヲ受ク可シ
- 第十九條 處方箋ヲ藥價領收濟ノ檢印ナキモノハ之ヲ調劑スヘカラス
- 第二十條 調劑了リタルトキハ藥劑員其處方箋ニ認印スヘシ
- 第二章 藥品器械取扱
- 第二十一條 醫療器械及調劑器械保管者ノ取扱事項ノ概要ハ左ノ如シ
  - 一 諸器械ハ原簿ヲ備ヘ置キ増減出納ノ都度之ヲ明記シ置ク可シ
  - 一 藥品器械ノ購求又ハ修復ヲ要スルトキハ品數ヲ記載シ醫局長又ハ藥局長ニ差出ス可シ
  - 一 諸器械ハ紛雜及毀損セサル様注意シ常ニ器械ノ利鈍及良否ヲ檢シ若シ闕損等アルトキハ之ヲ醫局長又ハ藥局長ニ申告ス可シ
  - 一 手術ニ供セシ器械ハ能ク淨拭保存スルモノトス
- 第三章 當直
- 第二十二條 毎日院長以下退散ヨリ翌日參院時限マテ左ノ人員順次當直スヘシ
  - 醫 員 一名

藥劑員 一名

第二十三條 院中ニ當直日誌ヲ備ヘ置キ當直中一切ノ事故ヲ記載シ翌日交替ノ節引繼クヘシ  
 第二十四條 當直醫員ハ各醫員退散後内外患者ヲ負擔シ并ニ往診ニ當ル者トス若シ一時夥多ノ外來患者アルトキハ在宅ノ醫員ニ急報シテ臨時之カ處置ヲ爲ス可シ

第二十五條 院長退散後入院患者異狀アルトキハ適應ノ手當ヲ爲シ緩急ヲ量リ院長ニ告知ス可シ若シ患者危篤ニ迫ルトキハ速ニ院長及患者ノ親族若クハ保證人ニ報告ス可シ

第二十六條 每次入院患者ノ食餌ヲ検査シ兼テ患者ノ見舞トシテ飲食物ヲ持參スル者アルトキハ點檢ノ上許否ス可シ

第二十七條 入院患者止ムテ得サル事故アリテ外出チ乞フトキハ其病症ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得  
 第二十八條 院中非常ノ事故アルトキハ官廳ニ急報シテ指揮ヲ請フ可シ但事急遽ニシテ指揮ヲ請フノ遲ナキ場合ニ於テハ當直者協議臨機處分ノ上院長及事務長ニ開申スヘシ

第四章 藥價及入院料

第二十九條 本院藥價ハ都テ即納トス  
 第三十條 藥價及入院料ハ左ノ通徴收ス可シ

水藥	一日分	金五錢
丸藥	一日分	金五錢
散藥	一日分	金五錢
外布藥	一日分	金三錢
點眼藥	一日分	金二錢
泡劑	一日分	金二錢

膏藥	大 一 貝	金三錢
	中 一 貝	金二錢
	小 一 貝	金一錢
洗滌劑	一 劑	金六錢
含嗽劑	一 劑	金六錢
灌腸劑	一 劑	金四錢
頓服藥	一 劑	金二錢
輪篤布	一 尺	金三錢
繙帶	一 本	金八錢
入院料		
上等	一日分	金一圓
中等	一日分	金四十錢
下等	一日分	金三十錢

第五章 看病人心得

第三十一條 看病人病者ノ看護上ニ就テハ都テ醫局ノ命令ニ從フ可シ

第三十二條 看病人ハ入院患者アルトキハ醫員ヨリ處方箋ヲ受ケテ調劑ヲ乞ヒ患者退院スルトキハ其處方箋ヲ即日醫局ニ返付スヘシ

第三十三條 看病人ハ交代徹夜シ火ノ元ハ勿論患者ノ安否ニ注意シ異狀アラハ速ニ當直醫ニ申告スヘシ

第三十四條 看病人非番ノトキハ事務局ノ許可ヲ得テ外出スルコトヲ得

第三十五條 看病人ハ患者ノ衣服寢具療用器械藥瓶浴室等ヲ清潔ニシ時々窓戸ヲ開キ空氣ヲ流通セシムヘシ